2022年5月15日『おじゃまんぼう』報告

大阪市住吉区のつどいの広場「つどいの広場シュッポッポすみよし」に行って きました。地元に根付いて11年。2間続きのお部屋と和室が区切られていることか ら、スペースの使い方に工夫を感じました。利用者からスタッフになられた人も 複数!『つどいの広場で一今、思うこと』を聞かせていただきました。



*ヤマシャクヤク

せる場所、共感出 来る場所、学べる 場所がある事に よって人や社会と 繋がりを感じる。 そういった場を提 供出来る事に関わ れて幸せだなと思 います。*** N**

私が0歳1歳の年子を抱えて、 身勝手にした話(育児で忙し いだろうとお隣さんがおかず を作ってきてくれて、ありが とうと受け取ったけれど、う ちはご飯も終わってて。有難 迷惑っていうか~) みたいな ことを、「そう思ってしまう んやね~ | と、笑顔で言って もらった。

今の私なら「助かるやん!有 難いやん↓って自分に言って あげられるけれど、その頃は 「大変そうに見られてるんだ」 という変なプライドがあり、 余裕がない=ダメなことって 思っていたんだと思います。 今スタッフとして、大事なの は正しいかどうかじゃなくて、 気持ちを出してもらうことな のかなぁと感じています。*は

子どもが1歳の頃、公園で遊んでいると「近くに つどいの広場がで きるから、遊びにきてね~| と声をかけてもらいました。この時に 声をかけてもらったから… このフラッといつでも行ける雰囲気の 心地よさを経験できました。子どもの癇癪が酷かったときは、人に 会うのもしんどくて広場にも行けず。人に迷惑かけちゃいけないと 心がガチガチになっていた頃… スタッフに「大丈夫、大丈夫、頑 張ってるよ~」と優しく話を聞いてもらったのが嬉しく、今でも印 象に残っています。子どものその日の気分、親のその日の気分に寄 自分の気持ちを話 り添いたいです。*H

> 初めての育児で悩み、ネット検索をしては迷走していました。 そんな中で、子どもと一緒にひろばのスタッフシフトに入れた ことは大変嬉しかったです。私はじっくり考えて行動に移すの で、ぱっと発言して行動される方々をみると焦りますが、私な りに、ゆっくり参加者さんと話したいです。*T



開室当初より、子どものいろいろな発育の 姿、子どもにかかわるおとな(自分も)が 悩みを聞き合える場になっています。その 中で、子どもの発育を比べない!と、私た ちが子どもから学んでいます。

子どもたちの生きる権利を見まもりながら スタッフしています。 *い

「子育ては、みんなでするもの。1人でするものじゃ ない | との思いは、この10年で少しずつ伝わって いってるのではないかと思います。

最近はワンオペ育児もあり、孤立している親が本 当に多いと思います。SNSも流行っていて、「家に いるとSNSでキラキラした人を見て自分がちゃんと 出来てなくて落ち込んでしまう」との声も聴きます。 コロナ禍で相談業務だけになった期間、ただ待って るだけではダメだと痛感しました。こちらからの働 きかけで、つながれた人がたくさんおられることも 実感しました。

私のような子育てに悩んでる、参加者と同じ目線 のスタッフが居るところが、広場の良いところだと 思っています。参加者さんと共に、学び、成長しあ える広場でありたいと思います。*Y



2022年6月

創刊号に続き、『2号』をお届けします。 共同子育で連絡会の学習会などは、広く どなたでも参加していただけます。

共同子育ての輪が、会員お一人おひとりの つながりから広がることを願っています。



*ツユクサ

公益社団法人子ども情報研究センター 倫理綱領

- 1. 私たちは、1977年2月乳幼児発達研究所設立の精神を継承します。
- 2. 私たちは、子どもの権利条約を共通の基盤として連帯し活動します。
- 3. 私たちは、子どもとおとなのパートナーシップを不断に求め実践します。
- 4. 私たちは、平和と人権をグローバルな思考とローカルな活動を通して希求します。

倫理綱領学習会 part 3

日 時:2022年7月30日(土)10時~12時

場 所:きらぽか広場(大阪市西区民センター1階)

及び Zoom 対 象:どなたでも

参加費:無料

内容:part2の続きから、倫理綱領3を読みあう。

オブザーバー:田中文子、山下裕子

申込み:準備の都合上できるだけ7月23日までに

ご連絡をお願いします。

公益社団法人子ども情報研究センター「共同子育て連絡会」合田由紀子 南田安紀子 メール: renraku@kojoken.jp 電話:06-4708-7087

倫理綱領学習会 part 2 (2022年 4 月30日) 報告

▼前半:自己紹介 (出席13人)

それぞれ、現在の所属やどういうきっかけで活動を始めたか、各自・各箇所の課題などを出し合うかたちでスタートしました。

- ・父親の育児参加は10年前よりは増えた気がするが歩みはゆっくり。
- ・20~30年前からも子育ての悩みはいっしょ。
- ・普段は子育て中の友だちの悩みをきいている。
- ・親学習が自分をかえるきっかけになった。自分に拍手を送りたい。
- ・地域の子ども会のありように疑問がある。
- ・子育て真っ最中。ワンオペ育児。
- 家族というより、子どもとどうかかわるかが課題。
- ・地域よりもつながれる人たちと出会ってきた。
- ・新しい出会いや日々のもやもやを感じあう交流がしたい。
- わからないことをわからないと言えないもどかしさ。
- ・今の子育て支援に当事者(子どもや親)の声がないことに苛立ち。
- ・子育てを一緒にするってどうゆうこと?

これらから出た課題の中から、子育て世代の悩みが、行政や社会、 業者などによってすり替えられているのではないかと論議になりました。子育てはもちろん生きていくにはお金がかかる。稼ぐ人がいる。 夫だけが働いて、妻はワンオペ育児。夫婦で働く共稼ぎ。シングルマ ザー・ファーザー。どの働き方も、個人的な問題にすり替えられてし まっていると。父と母、働く女性と子育て中の専業主婦。シングルで 育てることの難しさ。どれも対立の構図を企てられている気がすると 。敵は他にいるはずなのに。子育て不安のねっこを探っていきます。

地域とのつながりは今、どうなっているのでしょう。子育て広場や 子育て支援センターに行かないと地域で子どもどうし親どうしのかか わりは持てない。ご近所さんというだけで関係性は生まれないという のです。子育て支援という言葉の中にも一方通行で、親ができないか ら、駄目だから助けてあげるというニュアンスを感じます。

不登校についても話題になりました。子どもたちは「学校に行きたくない」という当たり前の気持ち(権利)を叶えてはもらえません。 そもそも、「子どもの権利」について、学校では教えてくれていません。だから子どもたちも知らないままで広がっていかないのです。

子どもの権利を認められにくい世の中は、おとなの権利も大事にされていない。子どももおとなも生きづらい現実。

話は今、おこなわれてしまっている「戦争」についても。子どもの 最善の利益、生きる権利も奪われてしまって、それでいいのか、 私たちに何ができるのかという声もありました。

こんなふうにいろんなテーマで、それぞれの意見交換ができることに希望を持てました。共同子育ての理念を基に~

▼後半:倫理綱領2を読みあわせて~意見交換

公益社団法人子ども情報研究センター 倫理綱領2

『私たちは、子どもの権利条約を共通の基盤 として連帯し活動します』

参加者全員で読み、それをどう活動に活かすかを 考えました。

ポーランドのヤヌシュ・コルチャックが訴えた「子どもはだんだんと人間になっていくのではなく、すでに人間です」という言葉に子どもは生まれながらに権利の主体であると再認識しました。子どもの権利条約を基盤とする私たちの活動において、ゆらぎない考えとして持たなければなりません。

子ども自身が最善の利益を行使する為にはかかわるおとながどうしていくのか、しっかりと掘り下げる必要があるという意見も出ました。

子どもの権利条約の成り立ちを学ぶと、この条約は、戦争後のおとなたちの贖罪として生まれたはずでした。それなのに今また同じ過ちを繰り返してしまっています。今こそ子どもの意見をきき、子どもの最善の利益を子どもとともに探る社会をめざしていきたいと改めて強く思いました。

同時に、子どもが「バンバン!」と、ブロックでつくった銃で撃つマネをするシーンが浮かびます。顔の前のブロックに「やめて」「いやだ!」という子どもと、「私は、戦いごっこはしたくない」というおとながいると、盛り上がりません。やりたい子ども同士で、笑いながら追いかけ合う遊びなら見守っていていいのでしょうか。子どもとともに生活する私たちには、子どもと一緒に考えていく責任があると思っています。

こういう学習会など、人権の勉強をする人はずっとするけれど、しない人はしないままなのかな。分断されてしまっているのを感じるとの声がありました。倫理綱領3・4を、読み合っていきましょう。

また、今は「こども基本法」に、子どもの権利条 約の精神が入っているか確認していくことが大切 な時。学習会あります!学んでいきましょう~



*カタバミ

学習会に参加して

共同子育て連絡会のあつまりに、これまでも数回参加しています。いつも、「おとなと話せた~!」と思うひとときです。

今回の学習会では、3人の子どもの主張、言い分を受けれるがないました。余裕がないましたのかないないないないないできていない気持ちといいとしました! ですががい出しました! ですがけいました! ように受けなるには、なかなかの課題だなぁと、改めて感じます。

第1子のときは、手を止めて話を聞いていました。だから、子どももこちらの思いを受け止めてくれる。3人目は3歳。この頃、ちゃんと顔を見ていなかったかもです。

今回、いろいろな年齢の、いろいろな立場の人の話を聞くことから思い出した自分の気持ち、大切にしたいと思います。*ニシザワ



*コアジサイ